

全国中学・高校ディベート選手権ルール改正について

2013年12月28日

全国教室ディベート連盟

全国中学・高校ディベート選手権ルールについて以下のとおり2点の改正を行いました。

①論題の付帯文の位置付けを明確にするため、第1条に2. を追加し、従来の2.、3. を3.、4. とします。

旧	新
<p>第1条 試合の進行</p> <p>1. この大会は、日本語で行います。フォーマットは、別表1・別表2の通りです。</p> <p>2. この大会では、原則として4名の選手が立論・質疑・第1反駁・第2反駁の各ステージをそれぞれ担当するものとし、質疑における応答は立論担当者が担当するものとします。出場選手については、別に定める細則A（出場選手に関する細則）に従わなくてはなりません。</p> <p>3. 試合は、司会者の指示によって進行します。選手、聴衆は、司会者の指示に従わなくてはなりません。</p>	<p>第1条 試合の進行</p> <p>1. この大会は、日本語で行います。フォーマットは、別表1・別表2の通りです。</p> <p>2. この大会では、主催者が定めた論題について試合を行います。論題に付帯文がある場合には、論題の一部として扱います。</p> <p>3. この大会では、原則として4名の選手が立論・質疑・第1反駁・第2反駁の各ステージをそれぞれ担当するものとし、質疑における応答は立論担当者が担当するものとします。出場選手については、別に定める細則A（出場選手に関する細則）に従わなくてはなりません。</p> <p>4. 試合は、司会者の指示によって進行します。選手、聴衆は、司会者の指示に従わなくてはなりません。</p>

②アピールの際、司会者の許可を得る必要はないため、細則Cの該当の一文を削除します。

旧	新
<p>細則C（反則に関する細則）</p> <p>1. 次の行為があったときは反則として、悪質な場合、審判団の判断でその試合を敗戦にすることがあります。</p> <p>（略）</p> <p>以上の反則行為があったと考えられる場合、選手は、試合中あるいは肯定側第2反駁直後に審判にアピールを行うことができます。</p> <p>アピールは司会者の許可を得て行います。</p>	<p>細則C（反則に関する細則）</p> <p>1. 次の行為があったときは反則として、悪質な場合、審判団の判断でその試合を敗戦にすることがあります。</p> <p>（略）</p> <p>以上の反則行為があったと考えられる場合、選手は、試合中あるいは肯定側第2反駁直後に審判にアピールを行うことができます。</p>

本件についてのお問い合わせは全国教室ディベート連盟事務局（jimukyoku@nade.jp）までお願いいたします。